



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



「患者のためを思って？」



当会理事

朝比奈クリニック 朝比奈 崇介 [医師]

患者を脅す、我が子を脅すということの罪を前回述べた。多くの医療者に何故患者を脅すのか？と聞くと恐らく「患者のためを思って」というであろう。今回はこの「患者の為を思って」について書こうと思う。

人は出来るだけ自分の人生を歩みたいと思っていると思う。それは自分の人生のあらゆる決断を自分の意思でしたい、ということである。しかし、一方でそのしたいことを続けていると別の生活のQOLの低下を産むことがある。糖尿病で食べただけ食べると、血糖が高くなって合併症を生じる場合である。これをTrade-offの関係にある、という。Trade-offとは「2つのうち一つを得ようとする、もう一つは手に入らない」という関係である。問題はこのTrade-offの関係にある事象はその人の価値観や周囲の環境などをもとに総合的に「本人」が決めるしかないのである。

今まで医者にごうしなさい、あしなさい、と言われて(守るか守らないかは別にして)、自己判断しないで療養生活を送ってきた人達はこの私が「どちらの方法をとりますか？」とTrade-offの現実と直面させると自己判断出来ないことが多い。「我慢も出来ないし入院はもっと嫌」とアンビバレンスをそのまま残して困惑する。または「先生のおっしゃる通りにします」「先生が決めてください」のように返答する。「先生ならどうされますか？」と聞かればもちろん「私なら〇〇する」とは言えるかもしれないが、私は私で貴方ではない。本当は私の価値観などは当てにならないのである。我々は全ての「その人」の人生観や価値観を知っているわけではない。一方で本来患者は嫌なことは「しない」または「出来ない」ので、確かに「医師の言った通りの指導に従う」と言ったはずなのに、いざ、合併症が進んでくると「こんなはずじゃなかった」「先生の言うとおりにしたのに」と責任が医療者に向いてしまう。あまねく全ての事象はそれを決めた人に責任がかかるので、先生が決めたのなら責任は先生に行くのだ。つまり失敗したらそれは先生の責任なのだ。

間違ってもらっては困る。私は、責任を取りたくない、と言っているのではない。それよりも誰もが自分の人生の責任を取れるのは自分だけなのだと思うし、それを負える限り自由な人生、他人に束縛されない人生が送れるのだと思うのだ。そういう意味で医療者は普段から慢性疾患患者の自己責任を負える自律性を育てなければならぬと思う。前回述べた、脅す/怒ることの罪悪は本当は患者や子供の自律性を失わせることが問題なのだ。表面上は判ったふりをする、従ったふりをする「取り入れ(introjection)」を患者/子供にさせるということは自律性を諦めさせ、放棄させることになる。もし怒ることが本当に必要なら、その後自律性を失わないように注意深くフォローする必要がある。

皆さん、出来の悪い子供を持つたり、患者さんを受け持つたりすることになっても悲しむ必要はない。彼らが出来が悪いからこそあなたたちは考え、努力をする。つまり彼らは、あなた方の教育学的手腕を向上させるために存在すると言っているのだ。出来の良いお子さんを持った方々が求めてでもするべきだった苦勞が向こうから来てくれたのだ。その幸運を喜びなさい。(笑)

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。当会会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。)

問題 低血糖症状について、正しいのはどれか、1つ選べ。

1. 初期症状として中枢神経症状が出現することが多い。
2. 血糖値が70mg/dLより高い値でも起こる。
3. 症状の発現には、ほとんど個人差がない。
4. 身体所見として皮膚乾燥などがみられる。
5. 交感神経症状を欠くことはない。



(答えは2ページにあります。)

研究会等の実施報告

第1回 糖尿病とwell-aging研究会

平成27年3月28日(土)
NSスカイカンファレンス

平成27年3月28日(土)に新宿NSスカイカンファレンスにて、『第1回糖尿病とwell-aging研究会』が開催され、51名の方が参加されました。

第1部では、貴田岡正史先生の司会のもと、「well-agingのために糖尿病診療に求められるものはなにか?」と題して東京医科大学八王子医療センター 松下隆哉先生に健康寿命を延ばすための体や心の健康の維持と高齢者への糖尿病薬選択について、また「高齢糖尿病患者に見るwell-agingのありよう-レジャー活動の意味-」と題して三菱京都病院 中野忠澄先生に高齢者のレジャー活動の重要性をご講演いただき、well-agingの意義や定義を示されました。第二部では、植木彬夫先生の司会のもと、「Well-agingを目指した高齢者糖尿病の診療」と題して、東京都健康長寿医療センターセンター長 井藤英喜先生より、J-EDIT研究などの内容でご講演いただき、高すぎず低すぎない血糖コントロールの重要性とともに、患者のQOLやADLをいかに維持していくか、また社会との関わりの中に自己の存在を感じる事が重要であることを示されました。最後に当研究会の代表世話人である植木彬夫先生から、高齢糖尿病患者が有意義な人生をおくることをテーマにした「糖尿病とwell-aging研究会」を開催する意味は大きいことを閉会の辞としていただき、盛会のうちに終了しました。



松下先生



中野先生



井藤先生

研究会等の実施報告

NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 企画委員会主催
第9回 学術講演会平成27年4月4日(土)
国分寺労政会館

【報告】 当会評議員 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]

去る4月4日、『NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 企画委員会主催 第9回学術講演会』は、「臨床研究の実施と評価のポイント～糖尿病研究を事例に」と題して富山大学大学院 医学薬学研究部 バイオ統計学・臨床疫学 折笠秀樹教授にご講演いただいた。

これまでNPO法人西東京臨床糖尿病研究会を中心に、施設や職種を超えて臨床研究が試みられてきている。一方、研究の公正さ、倫理性など多くが問われる時代にもなっており、臨床研究の基礎から丁寧に紐解いていただいたと思う。研究はまずその計画が重要であり、PICOS(対象者, 介入あるいは暴露, 対照, 結果(評価指標), 研究デザイン)をどう整えるかに知恵を絞らなければならないという話。そして、すでにある研究に対する批判的な評価・読み方の話。折しも社会にはトクホのみならず、健康機能食品なるものが出回ろうとしている。我々の患者さんをカモにしないためにも、データの読める医療従事者になることが求められているといえよう。

質疑応答で折笠先生は、多職種を含めた臨床現場の強みというべきか、ユニークで患者さんの役に立つ、臨床現場ならではの研究の重要性を強調された。まさに時宜を得た話だったのではないかと思う。



折笠先生

読んで
単位を
獲得しよう

答え

2

下記の解説をよく読みましょう。(問題は1ページにあります。)

解説

1. 通常は、中枢神経症状の前に交感神経症状(冷や汗、動悸、震えなど)が現れる。
2. 急激な血糖降下の際には低血糖症状がおこることが知られている。
3. 低血糖症状には個人差がありそれぞれ特有な症状を認識しているケースが多い。
4. 交感神経症状のため皮膚は湿潤していることが多い。
5. 交感神経症状を欠いた(交感神経症状が出現する閾値が、中枢神経症状が出現する閾値よりも低下した)場合は無自覚性低血糖とよばれ、いきなり中枢神経症状(意識障害や痙攣など)をきたす。

当会の事業・委員会活動のご紹介

- 『西東京インスリン治療研究会』の活動 -



当会理事
西東京インスリン治療研究会代表
杏林大学医学部付属病院

石田 均 [医師]

西東京インスリン治療研究会は、西東京地域における糖尿病治療、特にインスリン治療に関する現状での問題点や今後の可能性について様々な観点から検討を行うと共に、医師を中心とした医療関係者の知識と技術の一層の向上を目指すものと考えております。その時々々の糖尿病診療の現場で生じる問題をテーマとして取り上げ、日常診療の中で直ちに、そして真に役に立つことを目指しております。また、本会には糖尿病診療に携わる医師はもちろん、日頃の診療におけるチーム医療に重要な役割を果たしている看護師・栄養士・薬剤師などのコメディカルスタッフの方々にも積極的に参加いただいております。そして西東京地域における糖尿病チーム医療の発展にも繋がるよう、研究会の内容を毎回検討しています。

2004年より年1回の開催とし、今年で12回目の開催となりました。薬物療法からの観点だけにとらわれず、回によっては「劇症1型糖尿病」「糖尿病昏睡」「CGMをめぐって」といったテーマも取り上げております。疾患などに関する最近のトピックスを討議し合い、明日からの診療に直ちに活かせる研究会となっております。近年多様な糖尿病治療薬が誕生している状況下での真の「インスリン」の役割はもとより、その安全かつ適正な使用方法について、今後も医師・コメディカルスタッフの方々と協議を重ねる研究会の継続を目標としております。

連載コラム

テーマ「糖尿病と検査」～全3回～ 第3回

当会会員

公立昭和病院

櫻井 勉 [臨床検査技師]

糖尿病腎症の最新検査情報

今回は腎症早期発見の期待が高まっている検査項目、尿中L型脂肪酸結合蛋白(Liver-type fatty acid binding protein:通称L-FABP*)についてお話をさせていただきたいと思います。

CDEの皆さんは糖尿病性腎症の重要性を十分承知のことと思います。糖尿病性腎症は進行すると腎不全に陥り、最終的には血液透析か腎移植かという選択肢を患者さんに突き付けなければならない非常に厄介な病気です。血液透析患者の原疾患第1位という、あまり有り難くない座を糸球体腎炎から勝ちとって久しいわけで、透析患者を減少させるためにも、糖尿病腎症の早期発見は重要事項と考えられます。しかし、腎症は早期の段階では、非常に自覚症状の乏しい疾患でもあり、鋭敏な臨床検査が期待されている所以でもあります。

現在使用されている早期腎症を捉えられるマーカーとして、尿中微量アルブミンが最も汎用されていますが、L-FABP*は尿中微量アルブミンが陽性となる以前より尿中に出現し、時にはHbA1cが糖尿病領域になる前から上昇し始める場合もある早期腎症マーカーであり、腎症進行の度合いを判別するのにも適しているということで、期待が高まっている検査項目です。現在はELISA法を用いて測定するため測定に時間がかかっていますが、近い将来ラテックス法を用いた試薬が発売されれば、診察前検査も夢ではありません。

最後に糖尿病患者さんのために臨床検査技師を始めとする検査業界が如何に努力しているかを書かせていただき連載を終わらせていただきます。つたない連載をお読みいただきありがとうございました。

*L-FABP(2011年8月保険収載)

研究会等のセミナー・イベント情報

直接事業 間接事業 その他

◆NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 第57回 例会

申込不要

テーマ：『継続は力なり ～糖尿病治療中断を防ぐために～』

開催日：平成27年6月27日(土)

総会 14:50～15:20 / 例会 15:30～19:00

場所：調布市文化会館たづくり・大会議場 (京王線「調布駅」中央口・改札広場口徒歩3分)

参加費：当会会員 無料 (※受付で会員証をご提示ください) / 一般 1,500円

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

総会の「出欠票兼任状ハガキ」を本号に同封しております。開催日までに必要事項をご記入のうえ、お送りください。(欠席の場合、記名捺印要)

※詳細は同封の資料をご覧ください。

研究会等のセミナー・イベント情報

 直接事業
 間接事業
 その他

 平成27年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

開催日：平成27年7月5日（日）9：25～16：55（開場9：10）

場 所：北里大学・薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」徒歩13分）

参加費：6,000円（昼食代含まず）

申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。（トップページ「新着情報」でご案内しております。）

申込み期間：平成27年5月7日（木）～6月25日（木）

※詳細は同封の資料をご覧ください。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

<教育看護系分科会> ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群看護職>：申請中

<病態栄養系分科会> ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：2単位申請中

☆病態栄養専門師認定更新のための研修単位：2点

< 薬剤系分科会 > ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：2単位申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は<第1群><第2群>のどちらか一方のみ認められます。

 西東京CDEの会 第14回 例会

 申込必要

テーマ：『コンプライアンスからアドヒアランス ～自分たちの役割を、もう一度見直そう～』

開催日：平成27年7月11日（土）15：30～18：50

場 所：府中グリーンプラザ けやきホール（京王線「府中駅」北口徒歩1分）

参加費：当会会員 1,500円 / 一般 2,500円

申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。（トップページ「新着情報」でご案内しております。）

申込み期間：平成27年5月7日（木）～7月2日（木）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

 第9回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

 申込必要

テーマ：『糖尿病運動教室をはじめよう！』

開催日：平成27年7月12日（日）現地集合8：30 解散時間17：00

場 所：八王子市立看護専門学校（京王バス「ハ04：館ヶ丘団地行き」高尾駅南口より6分、北館ヶ丘下車徒歩2分）

参加費：当会会員 4,000円（※受付で会員証をご提示ください） / 一般 6,000円（いずれも昼食代含む）

申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。（トップページ「新着情報」でご案内しております。）

申込み期間：平成27年5月7日（木）～7月2日（木）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

※詳細は同封の資料をご覧ください。

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位：<講義>3.3単位 <実技>3.0単位

 第7回 東京臨床糖尿病運動療法研究会

 申込不要

開催日：平成27年7月23日（木）19：00～21：10

場 所：東京医科大学病院 6階 本館臨床講堂（地下鉄丸の内線「西新宿駅」徒歩1分）

参加費：無料

申込み：当会ホームページよりお申込み用紙をダウンロードのうえ、FAXでお申込みください。

FAX：042-527-2360（宛先：大塚製薬㈱ 吉廣 / 問合せ：042-526-3845）※申込みが無くても当日参加可能

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

発行元

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012

国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No. 3-802

TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478

http://www.nishitokyo-dm.net

Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



初のヨーロッパ旅行で出会った「I believe おじいさん」の話をさせていただきます。おじいさんはエストニアの歴史博物館にいました。展示されていた胸像について説明してくれたのをきっかけに、エストニアの独立の歴史を話してくれました。日本とエストニアはお互い小さい国で困っている、大きな国の隣で大変だとも。最後に「手紙を下さい、I believe」と言われて別れました。このbelieveの一言でつながりは続いています。患者とのつながりにも大事な一言がありますね。

（広報委員 岡崎 扶美恵）